

令和元年度三次市学力到達度検査結果分析及び指導改善計画

三次市立三和中学校

1 国語

学年	【教科指導について】 〔目標、結果については、全国平均との差を記入 (pt)〕 ○これまでの取組の成果 ●課題			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる 生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組	
	能力	目標	結果			
第1学年	話す・聞く能力	10	5.2	○「書くこと」の領域の作文の正答率が100%の生徒が多かった。授業や定期試験で、条件に沿って書く取組をしたことで成果が出たと考えられる。 ●「読むこと」の「文学的文章の内容を読み取る」で個々の正答率にばらつきがある。 ●「読むこと」の「登場人物の心情を読み取る」で課題が見られる。	「月に何冊ぐらい本を読みますか」で、全員が1冊以上読んでいると答えている。朝読書や学級図書の設定などで読む習慣がほぼ定着しているとわかる。一方で、「わからない言葉があるときは国語辞典を使いますか」で、「どちらかといえば使わない」「使わない」の回答率が高く、国語辞典を使う習慣が定着していないことが課題である。	① 文学的文章の読み取りでは、心情を表す表現を、根拠を基に考える取組を引き続き行う。また、場面の内容把握をさせるために、5W1Hなどの読み取りを丁寧に行うよう手立てをする。 ② 国語辞典を使う取組として、家庭学習で意味調べをさせ、授業でも自分で調べる習慣を身に付けさせる。
	書く能力	10	17.8			
	読む能力	5	6.4			
	言語	5	5.5			
第2学年	話す・聞く能力	10	8.9	○「読むこと」の領域「説明文の内容を読み取る」の正答率が高かった。授業で、論の展開や要点を捉えるときに、キーワードをもとに学習したり、図や表を分析して文章化したりする取組を行ったことで成果が出たと考えられる。 ●活用の問題で、資料を根拠にして内容を捉えることができていない。	「国語の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感じることはありますか」で、全員が肯定的な評価をしている。ここから、授業で学習した事柄を生活で活用していることがわかる。一方で、「わからない言葉があるときは国語辞典を使いますか」で、「どちらかといえば使わない」「使わない」の回答率が高く、国語辞典を使う習慣が定着していないことが課題である。	①活用問題に関する取組として、教材で、表現や図・表などを根拠にして内容の把握ができるよう指導の工夫や改善をするとともに、様々な活用問題にも取り組ませる。 ②国語辞典を使う取組として、家庭学習で意味調べをさせ、授業でも自分で調べる習慣を身に付けさせる。
	書く能力	15	30.5			
	読む能力	15	2.3			
	言語	10	10.2			
全体	○「書くこと」の領域の正答率が100%に近い生徒が多く、ほぼ定着していると考えられる。 ●「読むこと」の領域での正答率にばらつきがある。			1年生は、国語に関して肯定的な回答が多いが、2年生は肯定的な回答が低下する傾向にある。1、2年生ともに、国語辞典を使う習慣が定着していないことが課題である。	①国語辞典などの辞書類を使う習慣を身に付けさせるために家庭学習や予習の改善をする。	

2 社会

学年	【教科指導について】 〔目標、結果については、全国平均との差を記入 (pt)〕 ○これまでの取組の成果 ●課題			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組	
第1学年	目標	結果	<p>○基礎は9.7pt、活用は3.3pt 全国平均を上回ることができた。</p> <p>○「教えて考えさせる」授業を基盤とし、「理解進化」の場面において、グループで説明したり、話し合ったりする場面を設定したことにより、思考・判断・表現力において目標値を上回ることができた。</p> <p>●領域において、「世界各地の人々の生活と環境」について課題がみられた。(全国-2.7pt) また、誤答を分析すると、正答以外の誤答に均一に分散しており、理解が二極化していると考えられる。</p>	<p>○「社会の勉強をしたことによって、新聞やニュースに関心をもつようになった」の肯定的な意見が71.4%であった。(全国+9.5%)</p> <p>●「社会の勉強は好き」の肯定的な意見が35.7%であった。(全国-29.5%)</p> <p>●「社会の勉強をしたことで、生活の中で約に立つと感ずることがある」の肯定的な意見が57.1%であった。(全国-12.7)</p> <p>社会科の学習意欲に課題がみられる。また、社会科の勉強により、社会的事象に関心を持つようになったが、生活の中で役立つ所には達していない。</p>	<p>①実際の社会に見られる課題を基にした課題発見・解決学習に取り組み、学んだことを実感させるとともに、学習したことが生活の中で役に立つと実感させ、学習意欲の向上を図る。</p> <p>②理解が二極化している問題に対し、ドリル学習を行い理解の定着を図る。特に「世界各地の人々の生活と環境」について重点的にドリル学習を行う。</p>	
	思考・判断・表現	7.0				8.1
	技能	12.0				8.1
	知識・理解	7.0				8.7
第2学年	目標	結果	<p>○基礎は7.1pt、活用11.8pt 全国平均を上回ることができた。これは、「教えて考えさせる授業」を基盤として、基礎・基本の定着を図りつつ、「理解進化」の場面で社会的な見方・考え方を働かせる学習活動を取り入れた成果だと考える。</p> <p>○すべての領域において、全国平均を上回ることができた。</p> <p>●知識・理解において、目標値を達成することができなかった。</p>	<p>○「社会の勉強をしたことで、生活の中で約に立つと感ずることがある」の肯定的な意見が81.8%であった。(全国+16.1%)</p> <p>●「わからない地名に出会ったら、自分で調べる」の肯定的な意見が45.5% (全国+0.3%) であった。</p> <p>●「歴史上の人物やできごとを扱っている本を読むことが好き」の肯定的な意見が54.6 (全国+0.2%) であった。</p> <p>社会の勉強により、生活の中で役立っていると感じているが、わからないことなどについて、「情報収集」いう面では課題がある。</p>	<p>①課題発見・解決学習において、「情報収集」の充実を図り、生徒自身に情報の収集の仕方を身に付けさせる。</p> <p>②「教えて考えさせる授業」の理解確認の工夫を図り、知識・理解の定着を図る。</p> <p>③ドリル学習を行い、知識・理解の定着を図る。</p>	
	思考・判断・表現	7.0				7.6
	技能	6.0				7.6
	知識・理解	11.0				8.3
全体	<p>○1, 2年生ともに、基礎及び活用で全国平均を上回ることができた。また、1年生の「世界各地の人々の生活と環境」以外の領域において、全国平均を上回ることができた。</p> <p>○社会的な見方・考え方を働かせた「理解深化」に取り組み、一定の成果があったと考える。</p> <p>●1年生では技能、2年生では知識・理解について、目標値を上回ることができなかった。</p>			<p>○1, 2年生ともに、社会の勉強をしたことによって、新聞やニュースに関心をもつようになってきた。</p> <p>●わからないことを自分で調べるといった課題を追究するなどの学習意欲や関心に課題がみられた。</p>	<p>①実際の社会に見られる課題を基にした課題発見・解決学習に取り組み、学んだことを実感させるとともに、学習したことが生活の中で役に立つと実感させ、学習意欲の向上を図る。</p> <p>②「教えて考えさせる授業」を基盤としながら、社会的な見方・考え方を働かせる場面を設定し、資質・能力の育成を目指す。</p>	

3 数 学

学年	【教科指導について】 〔目標、結果については、全国平均との差を記入 (pt)〕 ○これまでの取組の成果 ●課題			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組	
	目標	結果				
第1学年	考え方	8.0	2.2	○基礎・活用ともに全国平均を約 5.0pt 上回っており、一定の定着が見られた。 ○関数領域において定着が見られた。 ●数と式の領域で、正負の数では定着が見られたが、文字式の計算に課題がある。 ●文字式を活用した説明問題に課題がある。	○数学の時間に発表し合う活動が好きで対話的な学習ができています。 肯定意見 64.2 (全国+13.2) ●解けなかった問題をふり返える生徒が少なく、間違えた問題を確認することに課題がある。 肯定意見 50.0 (全国-20.5)	①毎時間の小テストで文字式の計算を扱うほか、定期的に課題を出して定着を図る。 ②ふり返りプリントで記述式の問題を取り入れ、計算過程等を記述させ、グループ学習等を通して発表させる。
	技能	8.0	6.1			
	知識・理解	8.0	4.4			
第2学年	考え方	8.0	6.0	○活用が全国平均を 10.7 Pt 上回り、成果が見られた。 ○図形の性質について定着が見られた。 ●基礎に課題があり、特に式の計算に課題が見られた。 ●記述式の問題で全国平均は上回っているが、正答率が約 15%と約 30%と説明する力に課題が見られた。	○解けなかった問題についてふり返る生徒が多く、しっかり見直しができている。 肯定意見 90.9 (全国+20.7) ●いろいろな考え方を発表することが苦手であり、自分の意見を発表することに課題がある。 肯定意見 45.5 (全国+0.2)	①毎時間の小テストに課題のあった問題を取り入れ、正答率が低い生徒に対しての個別プリントを実施する。 ②授業において、説明を意識した発表の場面を積極的に取り入れる。
	技能	3.0	-2.1			
	知識・理解	5.0	-2.0			
全体	○活用が全国平均を上回った。 1年生 48.0 (全国+5.0) 2年生 54.5 (全国+10.4) ●数と式における文字式の問題に課題がある。特に分数の計算や分配法則に課題が見られた。 1年生 50.0 (全国-5.0) 2年生 48.1 (全国-4.0)			○数学が好きと答えた生徒が多く、意欲的に学習に取り組んでいる。 1年生 71.5 (全国+11.9) 2年生 81.8 (全国+27.6) ○数学を生活の中で役立つと感じる生徒が多く、実生活と数学を関連づけた課題発見・解決学習の成果である。 1年生 100 (全国+16.3) 2年生 81.8 (全国+5.0)	①「教えて考えさせる授業」を通して、基礎・基本の定着を図るほか、理解確認や理解深化の場面で説明を意識した課題を扱う。 ②引き続き、実生活と関連した単元開発を行い、課題発見・解決学習に取り組ませる。	

4 理 科

学年	【教科指導について】 〔目標、結果については、全国平均との差を記入 (pt)〕 ○これまでの取組の成果 ●課題			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組
	目標	結果			
第1学年	科学的な思考・表現	10	13.2	○自然や理科についての読み物や図鑑、テレビ番組などをよく見ている生徒の割合が高い。 57.1% (全国+10.9%) ○理科の勉強が好きな生徒の割合が高い。 71.4% (全国+1.0%) ●理科の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感ずることがある生徒の割合が50.0% (全国-4.8%)と低く、理科を日常生活に適用できる学力が十分に身につけていない。	①小テストや復習ドリルを積極的に取り入れ、知識・技能の定着を図る。 ②課題発見・解決学習を積極的に取り入れ、実験・観察方法を考えたり、実験・観察方法の留意点を考えたりする活動を行わせる。 ③実験結果の処理や考察を自分自身で行う授業を展開する。
	技能	10	20.7		
	知識・理解	10	18.7		
第2学年	科学的な思考・表現	10	8.7	○理科の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感ずることがある生徒の割合が高い。 81.8% (全国+21.4%) ○理科の勉強が好きな生徒の割合が高い。 72.7% (全国+7.9%) ●自然や理科についての読み物や図鑑、テレビ番組などをよく見ている生徒の割合が27.3% (全国-13.6%)と低く、主体的に学習する態度が十分に向上していない。	①小テストや復習ドリルを積極的に取り入れ、知識・技能の定着を図る。 ②課題発見・解決学習を積極的に取り入れ、実験・観察方法を考えたり、実験・観察方法の留意点を考えたりする活動を行わせる。 ③実験結果の処理や考察が実証的で論理的な手順でできているか考えさせて授業を展開する。
	技能	10	16.9		
	知識・理解	10	9.0		
全体	○おおむね、基礎的・基本的な知識・理解の定着が見られ、自然事象についての知識・理解の観点では、1, 2学年ともに全国平均を9pt以上上回った。 ●実験を行い、その結果を考えて解釈する問題に課題が見られた。単に知識を身に付けさせるのではなく、なぜそのようになるのかを考えさせながら理解させる指導が必要である。			○1, 2学年ともに、理科の勉強が好きな生徒が70%を超えており、全国平均を上回った。 ●実験や観察をもとに知識を身に付けることができるよう、観察や実験を行う意義を明確にした上で実験や観察をさせる指導が必要である。	○何のために実験や観察をするのかを明確にして実験や観察を行い、知識を確実に身に付けさせる。 ○生徒に課題を発見させ、その課題を解決するための実験・観察方法を考えさせたり、方法の留意点を考えさせたりする活動をさせる。 ○実証的で論理的な実験結果の処理や考察の方法を教え、自分自身で実験をまとめ、その正確性について考える活動をさせる。

5 英語

学年	【教科指導について】 〔目標、結果については、全国平均との差を記入 (pt)〕 ○これまでの取組の成果 ●課題			【学習に対する意識について】 教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組	
		目標	結果			
第1学年	表現の能力	5	25.2	○基礎で全国を上回った。 80.6pt(全国+17.7pt) ○活用で全国を上回った。 61.6pt(全国+19.4pt) ○基礎学力の定着、自己表現力に成果がみられた。 ●「対話文の完成」に課題がみられた。	○「英語の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感じる」と答えた生徒が 92.9%(全国+15.8%)である。 ○「学校の廊下で、外国人講師に英語で話しかけられたら、英語で会話をしよう思う」と答えた生徒が 100%(全国+17.5%)である。 ●「英語の辞書を使う」と答えた生徒が、28.6%(全国-14.9%)である。 ●「英語が好きだ」と答えた生徒が 64.3%(全国-0.9%)である。	①辞書を使い、ペアでスキットを制作し、発表させる。 ②に辞書を使い、テーマを与えスピーチを制作させ、発表させる。 ③苦手意識を軽減できるよう、興味を持てる材を工夫する。
	理解の能力	7	15.3			
	知識・理解	5	18.9			
第2学年	表現の能力	5	13.8	○基礎で全国を上回った。 70.4pt(全国+9pt) ○活用で全国を上回った。 56.8pt(全国+16.4pt) ○基礎学力の定着、自己表現力に成果がみられた。 ●「メール文の完成」に課題がみられた。	○「英語が好きだ」と答えた生徒が 90.9%(全国+38.3%)である。 ○「学校の廊下で、外国人講師に英語で話しかけられたら、英語で会話をしようと思う」と答えた生徒が、90.9%(全国+10.1%)である。 ●「英語の辞書を使う」と答えた生徒が 36.4%(全国-6.3%)である。	①辞書を使い、ペアでスキットを制作し、発表させる。 ②に辞書を使い、テーマを与えスピーチを制作させ、発表させる。
	理解の能力	7	9.1			
	知識・理解	5	12			
全体	○1年生に関しては、基礎、活用とも全国をかなり上回っている。 ○2年生に関しては、基礎・活用とも全国をかなり上回っている。			○「英語が好き」と答えた2年生と、「英語が役に立つと思う」と答えた1年生が全国をかなり上回っており、英語が生活の中で役に立つと感じている。 ●2学年とも「英語の辞書を使う」が全国を下回っており、意欲的に問題解決する自主性が乏しい。	①自己表現を伸ばすために積極的に辞書を使うことを色んな場面で提案していく。	

6 生活と学習に関する意識・実態

学年	○一層定着させたい点 ●改善したい点	課題に対する具体的な取組
第1学年	<p>○「勉強は大切だ」、「勉強すれば、自分の受験に役立つ」、「受験に役立つよう、勉強したい」、「自分の好きな仕事につけるよう、勉強したい」と肯定的に答えた生徒が100%である。</p> <p>○平日の学習時間について、2時間以上3時間未満の生徒が42.9% (全国+9.0%)、1時間以上2時間未満の生徒が50.0% (全国+11.0%) である。</p> <p>●「宿題があるときだけ勉強する生徒の割合が多い。(全国+21.1%)</p>	<p>①平日、休日を問わず、全国平均以上に学習時間を確保し、努力を重ねているが、その学習内容は宿題だけをこなしている生徒が多いと考えられる。したがって、自主学習ノートの工夫を図り、主体的に学習に取り組む態度を養う。</p> <p>②総合的な学習の時間の学習内容との関連を図り、夢を実現するための具体的な進路や必要な資格などを調べさせ、学習意欲の向上を図る。</p>
第2学年	<p>○「勉強は大切だ」、「勉強は受験に関係なくても大切だ」、「勉強すれば、自分の受験に役立つ」、「勉強すれば、自分の好きな仕事につくことに役立つ」と答えた生徒が100%である。</p> <p>○休日に2時間以上学習する生徒が多い。(全国+17.3p)</p> <p>○「授業の中でわからないことがあったら、友達にたずねる。」と回答した生徒が多い。(全国+19.1p)</p> <p>●「宿題がなくてもほとんど毎日勉強する」と回答した生徒がいない。(全国 - 8.0p)</p> <p>●平日に2時間以上学習する生徒が少ない。(全国-0.4p)</p>	<p>①学習することの意義や大切さをよく理解し、将来的に自分の役にたつと考える生徒が多く、学習することに対して肯定的な生徒が多い。しかし、宿題がある時だけする生徒が多い傾向にあるので学活やSHRを通じて学習方法や、学習内容について指導を行っていく。</p> <p>②進路学習を通して、将来の夢やその夢を叶えるための手立てを考えさせ、普段の勉強とつなげさせる。</p> <p>③高校入試を意識させた家庭学習に取り組みさせる。</p>
全体	<p>○1, 2年生のすべての生徒が、「勉強は大切だ」と考えており、将来を見据えて学習に励んでいる。</p> <p>●1, 2年生ともに「学習は大切だ」と考えている反面、「宿題があるときだけ学習する」生徒の割合が高い。</p> <p>1年生 50.0% (全国+21.1%) 2年生 54.5% (全国+19.2%)</p>	<p>①学校全体で生徒の課題を共有し、改善を図る。</p> <p>② 総合的な学習の時間や進路指導と関連させながら、将来の夢やその夢を叶えるための手立てを考えさせ、普段の勉強とつなげさせる。</p>